



(発行名義人) SSKR 障害者団体定期刊行物協会 東京都世田谷区砧6-26-21 1992年4月17日 第三種郵便物認可 (毎月3回7の日発行) 2018年1月30日発行 定価60円 SSKR増刊通巻第8283号

(編集人) 公益社団法人 横浜市身体障害者団体連合会 横浜市港北区鳥山町1752 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階 平井 晃

「創ろうみんなぞ」 共に生きる社会を



「ひょろっち」メンバーが 「あそびっくたん」 (写真中央) を囲んで

浜身連理事長年頭あいさつ

平井 晃



新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましても、健やかに新年を迎えられたことお慶び申し上げます。

また、日頃より当連合会の事業に、温かいご支援を賜り心より感謝申し上げます。昨年の8月に内閣府が実施した「障害者に関する世論調査」によりますと、障害者差別解消法について「知っている」と回答した方の割合が21.9%で、約8割の方が、障害者差別解消法を知らないという厳しい結果となりました。「共生社会」の実現に向けては、この法律を周知し社会の中に根付かせていくことがとても重要です。PRの強化はもちろんですが、一人ひとりの障害者の思いを具体的に伝えていくことが、この法律を社会の中に生かすことにつながります。

ています。そのためには、パラリンピックの成功が鍵になります。パラリンピックの会場を満員にしましょう。障害のある人も、ない人も、さまざまな形で大会に参加することで、日本の姿を世界にアピールしていきましょう。

新年を迎え、気分も新たに「夢」を描いてみませんか。私は、スポーツを通じた共生という夢をもっています。障害のある人も、障害のない人も、共に川沿いをランニングしています。車椅子の人もいます。スポーツセンターでは、共にボッチャや卓球を、近くの公園では、お年寄りと一緒に子供たちもグラウンドゴルフを楽しんでいます。こうした共生の姿です。皆さんも、それぞれの夢を大切にしてください。チャレンジすることで、きっと何かが動き始めます。

新たな年が希望にあふれ、障害のある人も、ない人も共に生き生きと暮らしていきますよう、そして、会員の皆様、関係者の皆様方の益々のご健勝を祈念いたしまして、新年のあいさついたします。

平成30年の年頭にあたって

横浜市長 林 文子



あけましておめでとうございます。皆様が新たな年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

昨年は、花と緑の祭典「第33回全国都市緑化よこはまフェア」を開催し、多くの市民・企業・団体の皆様のご支援により成功裏に終えることができました。「第50回アジア開発銀行年次総会」、「ヨコハマトリエンナーレ2017」、「横浜DNAバイスタースの日本シリーズ

進出などで街に大きな賑わいが生まれ、皆様の思いが横浜を大きく押し上げてくださった年でした。

今年も、「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA2018 (仮称)」や世界トリアスロンシリーズ横浜大会、横浜マラソンなどを展開し、街の魅力と賑わいを一層高めていきます。あわせて、今後の市政の羅針盤となる新たな「中期4か年計画」を策定し、計画初年度の取組を着実に進めます。横浜の持続的な成長と将来にわたる市民生活の安全と安心を実現するため、市を挙げて取り組んでまいります。

切れ目ない子ども・子育て支援、教育の環境と質の向上、女性の活躍支援の取組を発展させます。急増する医療・介護ニーズに対応するため、地域包括ケアシステムと医療体制の構築、健康づくりを進め、障害のある方、生活にお困りの方々への支援もしっかりと行います。中小企業や商店街の皆様への支援や成長分野の育成、更なる企業誘致と市内企業とのネットワーク創出にも取り組みます。横浜の国際競争力向上、都心臨海部の機能強化を加速させ、郊外部の活性化も進めます。大地震や豪雨などあらゆる災害に備えるために都市基盤整備を着実に推進し、公共建築物の保全・更新を計画的かつ効果的に進めます。そして2019年の「第7回アフリカ開発会議」、「ラグビーワールドカップ2019TM」、翌年の「東京2020オリンピック・パラリンピック」に向けて、しっかりと準備を進めます。

皆様とともに高めてきた横浜の活力を確かなものとし、将来へとつなげていくために、今年も「オール横浜」で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いたします。

「いくつ知っていますか？」

障害者に関するマーク

町で見かける障害者に関するマークには、主に次のようなものがあります。

	「障害者のための国際シンボルマーク」 障害のある人が利用しやすい建築物や施設であることを示す、世界共通のマークです。車椅子を使用する人だけでなく、障害のあるすべての人を対象としたマークです。
	「身体障害者標識」 肢体不自由の人が運転する車に表示するマークです。このマークを付けた車に幅寄せや割り込みを行った運転者は道路交通法違反となります。
	「聴覚障害者標識」 聴覚障害者が車を運転する際に表示することを義務づけられたマークです。このマークを付けた車に幅寄せや割り込みを行った運転者は道路交通法違反となります。
	「盲人のための国際シンボルマーク」 盲人のための世界共通のマークです。視覚障害のある人の安全やバリアフリーに考慮された建物、設備、機器などに付けられています。
	「耳マーク」 耳の不自由な人であることを表すマークです。このマークを見かけたら、ゆっくりと話したり、手話や筆談するなどの配慮をお願いいたします。
	「ほじょ犬マーク」 身体障害者補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）法の啓発のためのマークです。不特定多数の人が利用する施設（デパートや飲食店など）では、補助犬の受け入れが義務付けられています。
	「オストメイトマーク」 オストメイト（人工肛門・人工膀胱を造設した人）対応の設備がある場所を示す、またはオストメイトを表すマークです。
	「ハート・プラスマーク」 身体内部に障害のある人を表しています。外見からは分かりにくいので、様々な誤解を受けることがあります。内部障害への理解と配慮をお願いいたします。
	「ヘルプマーク」 外見からは分からなくても援助が必要な方がいます。このマークを見かけたら、電車・バス内で席をゆずる、困っているようであれば声をかける等、思いやりのある行動をお願いいたします。
	「白杖SOSシグナル」 視覚障害者が白杖を頭上50cm程度掲げてシグナルを出していたら、進んで声をかけて、困っていることなどを聞き、サポートをお願いいたします。

平井晃・横浜市障害者社会参加推進センター長から障害者週間の意義などに触れながらの挨拶があり、「ひよこっち」の手話パフォーマンスに移りました。手話を交えながらデフリンピックを知っていますかなどのクイズ形式での理解や赤鼻のトナカイの歌を会場の全員が手話を教

える12月3日（日）には、横浜ラポールで、「創ろうみんなで共に生きる社会を」をテーマに、手話サークル「ひよこっち」による手話パフォーマンスと、芸人「あそどっこ」による寝たきりお笑いライブ&講演会を行いました。

去る12月3日（日）には、横浜ラポールで、「創ろうみんなで共に生きる社会を」をテーマに、手話サークル「ひよこっち」による手話パフォーマンスと、芸人「あそどっこ」による寝たきりお笑いライブ&講演会を行いました。

障害者週間に啓発活動

えてもらいながら曲に合わせ歌い、会場は大変な盛り上がりでした。最後はゆるゆるの「スマイル」をみんなで歌い、楽しいひと時を過ごしました。

続いてあそどっこさんの登場です。あそどっこさんは、佐賀県生まれの39歳、生まれて間もなく脊髄性筋萎縮症になり寝たきりです。26歳の時熊本県最初の独り暮らし24時間介護対象者となったそう



です。当日は朝5時に自宅を出て九州新幹線に乗り、博多から新横浜へ、会場到着は12時過ぎの強行軍、お疲れさまでした。

あそどっこさんの生い立ちから現在までを面白可笑しく話され、「子供のころみんながプールでウォータースライダーをやるのを見て自分もやってみたら、ドボーン!!沈んで上げられず、もうやめとこう」などの話題で爆笑の渦でした。映像を交えた京都の旅では着物を着た二人のお嬢さんをナンパする体験に挑戦した話や、北風と太陽などのネタのあと、「障害のある人が普通に生活することは困難を伴います。一人でいろいろな体験してすごいですね」と言われますが、全部普通のこと。ただ寝ているだけ。障害のあることが違うだけ。色んな人が手伝ってくれている。」と締めくくられました。

参加者からは「話がリズムミカルでテンポ良く前向きな生き方が楽しかった。また聞きたい」など多くの意見が寄せられました。話の終盤で、私の写真集を受付で二千円で販売していますと話すところは大爆笑でしたが、なんと終演後の受付は長蛇の列で一緒に記念写真を撮っている人も大勢見かけました。感銘を受けた方が多かった証が見てとれました。



桜木町駅前、リーフレット配布

障害者週間に合わせ・11月29日に桜木町駅前で、障害者理解を進めるためリーフレットの配布を横浜市障害者社会参加推進センター会員23名の参加を得て行いました。



会員のみなさん



リーフレット

第58回政令指定都市 身体障害者福祉団体連絡協議会 親善ポウリング大会

政令指定都市身体障害者福祉団体連絡協議会及び、親善スポーツ大会が平成29年9月2日（土）～3日（日）に仙台で開催されました。

この大会は身体障害者の福祉を増進するため、大都市における共通の問題を中心に討議し、団体間の連携を密にして情報交換を行うと共に親善スポーツ競技を通じて友情を深めることを目的として、毎年各都市が順番に開催しています。

横浜市からは、連絡協議会出席者6名、スポーツ大会選手10名及び付添と事務局員総勢25名が参加しました。連絡協議会は、団体代表者、肢体、視覚、聴覚、難聴、内部の6部会に分かれそれぞれの都市における課題、その具体的な解決策などが活発に意見交換されました。連絡協議会終了後に行われた懇親会では、平成30年9月にこの大会が横浜で開催されることから、横浜市身体障害者団体連合会、平井理事長より「来年は横浜でお会いしましょう」との挨拶がありました。

余興のカラオケでは横浜参加メンバーが周りを囲む中、山田副理事長が「横浜たそがれ」を熱唱し、各政令都市の皆様が横浜開催をアピールしました。

翌日の親善スポーツ大会は、選手の方々の白熱したボウリングが繰り広げられ、横浜市は参加11都市中第7位の成績でした。個人女子の部では、村野美幸さん(横聴協(写真))が、4ゲーム合計753点(アベ188)をたたき出し、優勝という素晴らしい結果を残しました。また、各都市から推薦される優秀選手賞は、星川暁(浜視協)さんが選ばれました。次回の大会でも皆様のご健闘を期待しております。



なお、この大会への参加にあたって、神奈川県共同募金の助成を受けております。

イベント 「江戸の風から南米の風」開催

(浜視協 副会長 大橋 由昌)

多くの視覚障害者団体に共通する課題として、会員の減少と高齢化があります。

横浜市視覚障害者福祉協会においても会員数の横ばい状態が続いており、改めて会員のニーズにこたえうる活動をしていかなければ、と役員で話し合いながら、市からの補助金に頼らない自主事業を企画し、11月18日にラポールシアターにおいて表題の「浜視協文化祭」を開催しました。この目的は、会員同士の親睦の場に加えて、障害者理解促進のための社会啓発及び作業所支援の試みでもあり、参加記念品として点字用紙のリサイクル手提げ袋に入れた地元の作業所製造のクッキーも用意しました。

プログラムは、横浜市立盲特別支援学校の中学3年生のピアノの弾き語りや、神奈川県ライトセンター職員率いるデュオグループの歌とピアノ伴奏、病院勤務の弱視者による落語「味噌蔵」、そして会員のひとりがギターで参加するフォルクローレグループ・森の風人の「コンドルは飛んでいく」など、楽しいステージが続きまして。参加者128名で、成功裏に終了した、と実行委員は安堵の胸をなでおろしました。



落語「味噌蔵」の熱演風景

楽しく学ぶ発声教室 (横浜市港笛会 和田紀信)

横浜市港笛会は、喉頭を全摘して声を失くし、身体障害者になった人達が、発声などの方法で再び声を取り戻して社会生活を楽しめるようにと半世紀前にスタートしました。

現会員約70名で、声を取り戻した会員が横浜市立大学附属病院と神奈川県立がんセンターの2か所の教室で後輩の指導に当たっています。

目や耳や肢体の障害に比べ、努力次第で健常者と見紛う上級者も現出します。以前

浜視協副会長・池田信義さん 厚生労働大臣表彰

「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」制定70周年を記念して、11月5日に「記念の集い」が、あはき等法推進協議会主催で、



その席上、横浜市視覚障害者福祉協会副会長で、浜身連理事でもある池田信義さんが、あん摩マッサージ指圧・はり・灸業務功労者として、厚生労働大臣表彰をお受けになりました。

池田信義さんは、盲学校を卒業後50年以上にわたってあはき業を生業とする傍ら、横浜市、横浜市中区、浜身連、横浜市社協障害者部会等あらゆる方面で、視覚に障害のある方々のために、長く活躍してこられた方です。今後のますますのご活躍を祈念しております。

頭の固いお役人が「食道発声の熟達者は身体障害者手帳を返上すべきだ」と血も涙もない言葉をついたことがありました。消化器系と呼吸器系を手術で完全に分離し、鼻や口から呼吸できない障害は死ぬまで残ります。口腔や鼻腔の官能温調濾過機能の素晴らしさは、失って初めて解ります。この障害の唯一のメリットは誤嚥で死なないことです。



発声教室風景

会の活動として、発声教室の他に家族を含めての親睦のため、浜身連主催の運動会等の催事への参加、市の福祉バスを利用しての旅行、夏冬の納涼会と忘年会などを行っています。

「視覚障害者サウンドテーブル テニス(盲人卓球)関東大会」

笠羽さん・田中さんが準優勝



平成29年11月に相模原市において第31回日本盲人会連合関東ブロック協議会主催の視覚障害者サウンドテーブルテニス大会が開催され、個人戦・女子の部で笠羽明美さん(写真右)、男子の部で田中献造さん(写真左)が準優勝しました。出場選手は関東1都7県5政令市13団体から各地域で予選を勝ち抜いた60名(横浜市は5名)でした。

2年後は横浜市が当番都市となります。

”お陰様で創立40周年“ 横浜市車椅子の会

ミニコンサートを開催 (車椅子の会・浜崎 孝行)

平成29年11月18日(土)新横浜国際ホテルにおいて横浜市車椅子の会40周年祝賀会が開かれました。開始前、会場の「パンブトンの間」をうかがうと中央にはスロープ付きの舞台が設置され、右側にはこの日のために用意したグランドピアノ、さらに上段には「横浜市車椅子の会創立40周年記念祝賀会」の大きな吊り看板が掲げられていました。



出席者同士で落ち着いて会話ができるように配慮された会場はそれぞれのテーブルの中央に季節の生け花が置かれ、各テーブル間が車いすでも自由にゆったりと通るスペースを確保されていました。出席者には会員であり、日本各地やニューヨークでも個展を開催し活躍している塚田麻美さんの絵画2点が展示され、会場により一層の華やかさが漂っている中、時津副会長の司会によって記念すべき式典の幕が上がりました。

主催者を代表して平井会長から昭和52年の車椅子の会を結成する切っ掛けとなった「車いす用トイレが横浜市内に初めて山下公園に設置されたのを契機に、第2・第3の車いす用トイレが出来るように活動を始めよう」と福祉の街づくりから始まったエピソードには初めて

知る方など多くの人がうなずいていました。

高木会計監査の乾杯が始まるとホテルのカスタムメイドされたコース料理が次々と運ばれワンランク上の料理に皆が堪能していると、タイミングに合わせてように正面のスクリーンに40年の長い歴史を物語る写真が走馬灯のように過去の様々な活動場面が映し出され、懐かしい先輩方の顔が浮かんで消えていきました。祝賀会の予定外クライマックスはミニコンサートの時間、ゲストの中村牧さん(ピアノ)、丸尾有香さん(歌)で盛り上がった際に、「ゴッドファーザー」の曲が流れると平井会長「コールで舞台上とというハプニングがありアイドル並みのフラスコ、一番の拍手喝采となり幕引きになりました。

浜肢体の現況と課題

(浜肢体副会長 水田 哲也)

横浜市肢体障害者福祉協会は、昭和42年4月に設立し現在に至っており、会員相互の交流を深め、体力の向上、機能回復を

この似顔絵分かりますか？



(答えは各自で)注 実物はカラーです

作者・清水博貴さん(横浜市肢体障害者福祉協会事務局長)は、利き腕の右腕が不自由なため、左手でイラストを描いています。

キャリアは、約5年、作品は20数点あります。展示会等で要望があれば貸し出しもしてくれそうです。

目的とした事業を実施しています。



熱田神宮にて

業は、一泊歩行訓練会、補装具着用訓練、スポーツ事業(グラウンドゴルフ大会、卓球大会)などの実施や横浜市身体障害者連合会と連携して、積極的に行事に参加しています。

恒例となっている一泊歩行訓練旅行では、片手麻痺者、手、足の切断者など、それぞれ補装具も異なり各人が社会復帰を目指して頑張っている成果の発揮しどころです。

昨年9月には名古屋市方面への旅行でした。幸いに天候に恵まれ上々の出足でした。直虎館は大層な賑わいでさながら大河ドラマのワンシーンに出演している気分がびっくりでした。

2日目の熱田神宮参詣ではその荘厳さに自然に深々と頭を垂れ日頃の健康に感謝しました。名古屋名物の味噌カツを食し帰途に向かい、参加会員全員から大満足の声をいただきました。

浜肢体は現在会員約600人、横浜市18区の内10区が浜肢体に登録し参加協力していますが、市内全区が浜肢体に登録、参加して会員増に繋げるにはどうすべきか大きな悩みです。楽しい事業を増やすには予算が足りない。横浜市が福祉施策に力

を注いでいることは十分に分かっていますが、障害による孤独感、孤立感、同じ障害を持つもの同士が交流することにより、分かり合える何かが生まれてくるような気がします。これからも活動を活発にし、浜肢体の体制を整え会員増を目指していくことが大きな課題と想っています。

横浜市障害者パソコン講習会

ラポール3Fパソコンルームにて

301コース パソコン・iPad入門 3/10(土) 303コース ワード総合 3/12(月)14(水)
302コース パソコン・iPad入門 3/11(日) 304コース エクセル総合 3/15(木)16(金)
10時~16時 13時~16時

知的障害対象 肢体・内部・精神・聴覚などの障害対象

Windows10、Office2013で講習します

申込: 直接窓口か往復ハガキで下記まで送付ください
住所・氏名・年齢・TEL・FAX・コース・障害名(等級)・
手話・筆記通訳必要の有無を記入

締切: 2月20日(火) テキスト代: 301/302コース: 無料
受講料: 500円 303/304コース: 2,160円



問い合わせ・送付先
横浜市障害者社会参加推進センター
〒222-0035
横浜市港北区鳥山町1752 横浜ラポール3階
TEL 045-475-2060 FAX 045-475-2064

編集後記

先日NHKのテレビ「がんを生きている常識」の中で正岡子規の話に衝撃を受けました。

34歳の若さで結核により死亡した彼ですが、作品『病牀六尺』の中に「悟りという事は如何なる場合も平気で死ぬる事と思っていたのは間違いで、如何なる場合にも平気で生きる事であった」とあるそうです。

現在私を含めて、がんやいろいろな病気、後遺症、障害で苦しんでおられる人も多いですが、この平気で生きる気持ちの強さを持ちたいと感じました。今やがんは日本人の50%の方がかかる病気ですが、もしがんの宣告を受けても早期治療に専念すると共に、強く生きてもらいたいと願っています。(副編集長 高橋昌彦)